

第 9 期第 4 回神戸市立図書館協議会 議事要旨

日 時：2026 年 8 月 5 日（水） 10 時～11 時 30 分

場 所：神戸市立中央図書館 2 号館 4 階 研究室（1）（2）

出席者：（委 員）原田会長、齊藤副会長、角委員、尾野委員、合田委員、常泰委員、福田委員
オンライン参加：柏木委員

（事務局）中央図書館長、総務課長、総務課課長、総務課係長 5 名、利用サービス課長、利用サービス課係長 3 名

傍聴者： 6 名

議事次第

1. 開会

第 9 期第 4 回にあたって

2. 報告

（1） 令和 7 年度「図書館ご利用の皆様へのアンケート」集計結果

（2） 本の文化振興プロジェクト 取り組み状況（令和 8 年度）

3. 協議

（1） 令和 7 年度神戸市立図書館事業評価（案）について

4. 閉会

議事要旨

1. 開会

前回に続き生成 AI が話題になり続けている状況である。先月、韓国図書館情報学会という国際学会に参加した。そこで印象的だったのは生成 AI の教育での扱いが変わってきている、という点であった。具体的には、特に子ども、青少年に関しては生成 AI が良いか悪いかではなく、それを越えて「必ず使うツールだ」という前提で教育を行わなければならない時代になってきたということである。これまでは先生が良い点や、ハルシネーションをはじめとする問題点をどう教えるかが問題という段階であったが、現状は「問題は分かっていたとしても使うのをやめるという選択肢はありえない」という段階に入っているのである。図書館・学校を含む社会教育・学校教育は、このような前提のもとでどう対応するのかを考えなければならない。このような点が学会でも議論の中心であった。日本でも同様の状況に近づいてきており、利用が下火になることはないだろうと予想される。図書館においてもそれらの利用を前提に、その上で何をプラスアルファとして提供するのかを考える必要がある。神戸市立図書館でも様々な形で AI 活用・非活用の取組をされていると理解している。これらが今後市民にどう展開していくか、さまざまな観点から議論いただきたい。

2. 報告事項

事務局より報告

報告事項（１）令和７年度「図書館ご利用の皆様へのアンケート」集計結果（資料３）

- ・集計結果について報告

報告事項（２）本の文化振興プロジェクト 取り組み状況（令和８年度）（資料４）

- ・取り組み状況について報告

【報告事項に関する質疑応答】

（１） 令和７年度「図書館ご利用の皆様へのアンケート」集計結果

（会長） 満足度調査について、質問・コメント等をお願いしたい。もちろん、良い点もたくさんあり評価すべきであるが、この種の調査は来館者へのアンケートであるため、一般的に高評価になりやすい。90％前後の高評価というのは評価できるが、気になった点、注目すべき点もすくいあげていきたい。図書館としては、先ほどの垂水図書館の新館開館以外のポイントとして気になる点は何があるか。

（事務局） 利用成果や応接のあたりは、須磨の評価が比較的高くなっている。これは例年の傾向でもある。また、名谷図書館は全体の中ではやや低めながらも、総合評価は少し上げてきたと感じている。

（委員） 東灘と灘区の方の満足度がやや低く、新しくした図書館に対する評価は高い。借りたい本があるか等の数値が低いように思われる。

（事務局） どうしても館規模と新しさは関係があると思う。特に、やや硬めの本をお探しの方からは、地域館の蔵書について「もう少し専門書があってほしい」というご意見を自由記入欄でいただくことがある。

（委員） 来館目的について、予約本の受取が少ない中央などは、予約しなくても来館して本を探せば、読みたい本があるのではないか。垂水は新しいため何となく来館する人が多い。蔵書が少ない館は事前に本があるか調べてくるため予約が多い傾向にあるのではないか。東灘・灘図書館は予約が３割を占めるが、何か理由があるか。

（委員） 図書館ではなく、自宅などで読む人が多いのではないか。一方、図書館自体に対する満足度は低い。

（事務局） 東灘・灘図書館は繁忙館であり、館内でゆっくり本を探すよりも、予約本受け取りなど効率的な利用スタイルが多い印象。中央図書館はレファレンスブック等、多様な蔵書がある。予約利用もあるが、調べ物目的の利用者も多く、今回の結果につながっていると考える。三宮は仮移転で少し不便な場所に移った影響から、自習利用は増えたものの、本の利用がやや減っていると考えている。

- (委員) 評価の考え方として、政策改善に寄与し、基準と比較することこそが重要であるとも言われる。その意味で評価結果を「どう使うか」が重要だと思う。現状のまとめ方自体は最小限の出発点としては良いが、ここからどう展開し活用していくのか、さらにどんな分析計画があるかを確認したい。
- (事務局) 現状は指定管理者の評価に用いている。前年度比較や移転後の効果測定等に活用している。
- (委員) 図書館にどのような形で来館しているのか、もう少し分析していただきたい。個票データは残っているか。
- (事務局) 残っている。
- (委員) 個票があるなら、利用者タイプの分析を進めるべきと思う。同志社大学の佐藤翔先生がまとめている評価があり、その中でこのような調査について、全体的な評価を行っていたのでは今後に繋がりがなく、例えばクラスター分析等で利用者を分類してはどうかという提案もされている。彼が行った 10 年前の国立国会図書館による利用者調査では、「子ども連れの母親」層が全体の 6～7%程度存在し、彼女たちは資料を借りていない傾向や、本人としては図書館へ好意的ではないという分析結果が示されている。そこから子どもには良いが、保護者は見守りが必要で時間を取りづらいという課題が指摘でき、それではじめて実際の政策を考えることができる。これは全体数の集計だけではわからない。その知見を聞いて、石川県立図書館では、子どもの来館時に見守りボランティアや、母親層への積極的働きかけの取り組みにも生かされたと聞いてある。神戸市でも今回の調査をきっかけに、新サービスの可能性や届いていない層の抽出など、より細かな分析を行うことが有効だと思う。もし実施予定があるなら、佐藤翔先生の資料も共有可能。30 分程度の説明も提供できる。単に表や処理結果をまとめるだけでなく、今後の活動に寄与する形で分析を深めてほしい。
- (委員) スキルと技術がないと難しいと思われる。単変数の分析になっていて、クロス分析ができていない。指標自体が名義尺度と間隔尺度をばらばらに使っている。このあたりはアドバイザーなしでは難しく、統計ソフトもはじめは難しい。必要ならローデータをいただければ手伝うことも可能。
- (委員) 回答者数が 60 代以降に偏っている点は「やはりそうか」と感じる。ただし、事業報告書で毎年公表される「事業への参加人数」と突き合わせると、若年層の利用も一定あることが見えてくる。これは現場や図書館に詳しい者には読み解けるが、一般市民には分かりにくい。事業ごとにアンケートや感想を取っているはず。集約は作業量が大きいですが、図書館側のコメントを付記すると人の体温が伝わる回答になるように思う。毎年でなくとも、

学校に通っている層が地域の図書館をどの程度利用しているかを把握したい。学校図書館の存在はあるが、本好きの学生は地域図書館も利用し、事業を支えている実感がある。3年、5年に一度でも調べていただきたい。

(2) 本の文化振興プロジェクト 取り組み状況(令和8年度)

- (会長) 例年、このプロジェクトは、面白いものがいっぱい上がってきている。これに関しても質問・コメント等をお願いしたい。
- (委員) ナイトピクニックが8月3日で非常に暑かった。もう少し涼しい時期にも実施されると参加しやすいのではないかな。
- (事務局) ナイトピクニックは年間を通じ複数回開催。今回は本の文化振興で急遽参加し、直近の回に合わせた。今後については資料のとおり10月にも参加予定。
- (委員) 書店開業支援はすでに開業に進んでいる参加者はいるのか。
- (事務局) 事業立ち上げには時間がかかる。どの程度の熱量の方がいるか把握したいと思い、リアルの質問会・相談会を実施し、実需と温度感を測る予定。現状は「これから」である。
- (委員) 書店が減少する中、行政の後押しは非常に良い。神戸駅構内の大垣書店ブリコ神戸店が8月16日に閉店。大規模ではないが利便性は高かった。近年は、従来型書店が減少するなかで、カフェや雑貨など複合業態で「本に触れる機会」を提供する形が増加している。相談に来る開業志望者もその傾向が多いと推測する。有意義であり、継続支援を希望する。
- (委員) 小学校現場でも「読まない層」への働きかけは難しい。デジタル情報が多い今、Instagram等からの導線は良い切り口である。おすすめ提示の方法として、タイプ別や気分別等の端的な指標提示が有効ではないか。
ナイトイベントは8月で夏休みを意識した設定かと思われるが、年代ごとに「本と直接は結びつかないが足を運びたくなる」仕掛けは異なる。子育て世代が利用しているという話もあった。年代ターゲットを絞った情報発信が必要ではないか。現在のSNSは未確認だが、その点の工夫・検討はあるか。
- (事務局) 昨年度「本とのひととき」を実施。市内22書店が同時期・同テーマで店内フェアを展開。書籍紹介を5タイプに分類し提示。「平日は早起きして朝読タイムはいかがですか」、「小説の世界をゆっくり味わう豊かな時間」、「休憩時間は甘いおやつと本でひと休み」、「本とアロマに癒されながらおやすみなさい」、「本と一緒に出かけよう」と、各場面に合わせておすすめの本と、神戸市内事業者の物品も組み合わせた展示を実施。年代別ターゲットは取り組めていないため、インスタ運用事業者と協議し、今後検

討する。

- (委員) 類似例としては鳥取の NPO 法人「本の学校」に近いが、このような取り組みは多くない。日本国内でユニークな活動としてアピール力がある。取り組みの更なる展開を期待。Instagram はフォロワー数を一桁上に増やせると良い。拡散は容易ではないが目標設定が重要。
- (事務局) まずは 2,000 フォロワー超えを目標に設定。2,000 を超えると広がり方が変わると指導を受けている。

3. 協議

事務局より説明。

協議事項 (1) 「令和 7 年度神戸市立図書館事業評価 (案) について」 (資料 5)

- ・事前に図書館案を委員に送付し、回答をいただいた。評価と付随するご意見を【図書館協議会の評価・意見】として各項目に記載した資料をもとに説明。

【協議事項に関する質疑応答】

- (会長) 関連事項もあるが、それぞれの項目について、図書館の自己評価を踏まえて議論し、その後に委員会としての評価をまとめたい。まずは (1) 資料の充実について、概ね高い評価で一致。特に電子書籍閲覧数の大幅な増加は、前年比約 3.5 倍となっているが、児童向け「読み放題パック」の影響が大きいのか確認したい。このうちどれくらいが読み放題パックの閲覧か。
- (事務局) 一般利用は前年と大きな変化はない。電子図書館の 1 日当たりの利用データは 2025 度、ログイン数 678 回、貸出者数 58 人。本年度は 4~7 月の平均的推移であるが、ログイン数は倍近く増加、貸出者数は特に変化がない。読み放題パックは「閲覧のみ」で貸出に反映されないため、現状、一般の貸出利用は横ばいで、読み放題パックを利用する児童が増加したと思われる。
- (会長) 同様の傾向は東京都足立区や大阪府枚方市でも確認され、読み放題パックの効果は他自治体でも指摘されている。GIGA 連携で ID 配布を行っていることが、この成果を生み出している点は評価に値する。分析については、児童と生徒の厳密な切り分けまでは未実施だが、一定の分析を行い、電子書籍の整備を進めている。新館開館を見据えた蔵書構成、電子書籍の利用、郷土資料を含む資料の着実な整備等を踏まえ、当該項目の評価は「評価 (A)」で取りまとめたいがよいか。
- (委員) R7 年度の評価としては提示どおりで良いが、GIGA 端末が昨年度から iPad に変更となり、電子図書の ID 付与により子どもが閲覧機会を得ている点を踏まえ、選書面の要望がある。子どもたちが電子図書を使うのは「図書館に紙の本の冊数が足りない」等で代替を探す場面が多い。読書量の少ない子は

教科書の内容に応じた本を探す傾向が強く、見つからないと利用が途切れがちである。電子化の有無に差があるが、教科書に登場する作者や、学習単元に関連するテーマ本の電子版の充実が可能であれば、ログインや閲覧の利用はさらに伸びるはず。デジタル本はページ送りが連続で戻りづらいなどの操作性の制約があり、子どもには紙の本ならではの質感も必要と考えているが、多人数で見たい時、現場では紙の本を十分に揃えられない制約があるため、電子版の拡充は有効な補完になる。学校図書館でも事前に狙って資料を購入しているが、補助してもらえるとありがたい。電子化されているものについて、事務局含め「どれが良いか」相談いただける機会があると助かる。「これが欲しい」という要望を伝えたい。パソコン更新やソフト更新、ID 忘れなどで利用率が下がる時期もある。ただ、集中して取り組む時期には効果があると思う。

(事務局) 今年 2 月、教育委員会の学校図書担当の指導主事に参画いただき、選定にご意見を頂戴した。当方が良いと思っていたものに対し、現場の先生から「子どもは怖い話が好き」「るるぶ等のガイドブックを揃えると社会科で役立つ」等の貴重な意見を得た。これを踏まえ、今回 13 パックを選定した。紙の本も重要であり、学校宛てに団体貸出で本を提供している。テーマをご提示いただければ、テーマに合わせ選書して団体貸出するサービスを実施している。今後も連携を深めたい。

(委員) 現在 285 コンテンツ、7 種類であるが、これが 13 パック増えるのか。

(事務局) 7 パックで 285 コンテンツだったのが、今年は 13 パック 498 コンテンツになる。6 つパックが増える。

(会長) ガジェット／ソフトは開発が進んでいるが、子供が本から感じる匂いや重さは現時点では解決できない問題。デジタルと紙の両方の充実が必要である所以でもある。このあたりのバランスなどは現場の意見を聞かないと上手いかないのは当然である。より密に連携して進めてほしい。他に意見はあるか。評価 A とするにしても、今後の参考に意見を求む。

(委員) 学校側が図書館に「こういうテーマを」と依頼した場合、どの程度の準備期間で学校へ届けられるか。

(事務局) 2 か月前の申請をお願いしている。ご要望に応じ当方で選書するため、2 か月の期間をいただきたい。

(委員) 期間については周知されている。全館からテーマ本を集めていただけるが、テーマに合致しても 2～3 行しか使えない本が混ざることもある。テーマの絞り方を学校側でも工夫する必要がある。読み込み教材ばかり入る場合もあり、難しい。

(委員) 他自治体も同様の課題があるはず。ニーズ情報を集めて他自治体と共有し、

出版社に「この本の需要がある」と示してほしい。値付けは別だが、需要が見えれば刊行の可能性が高まる。

- (委員) 防災の本なども需要が大きい。
- (会長) 事務局の負担もあるので、単独で抱えず他地域と連携、ネットワーク共同で取り組んでほしい。資料充実の取組は評価 A とする。
- (会長) 次の議題「読書推進」に移る。地域特性を活かした各館独自の連携事業、北図書館の読書会の継続を評価。神戸の本の文化振興プロジェクトを高く評価。イベント等への評価が多いが、追加意見があれば発言をいただきたい。アウトカム指標の提案もあった。イベント参加者にどのような良い点があったかの分析があると良い。来館者の期待に応えるだけでなく、新たな来館者を発掘する転換も必要との意見もある。図書館としてコメントをいただきたい。新規利用者の発掘は文化プロジェクトが一つの例だが、他の考えはあるか。すぐには難しいため継続が中心か。
- (事務局) 新館開館は注目を集める好機であり、普段来館しない方にも注目いただける。垂水図書館で実施したように、地域の方が集まり交流できる場を提供していく。今後も新館の予定が数館あり、取り組みを継続したい。
- (会長) さまざまな情報発信、図書館内に留まらないプロジェクトを評価し、読書推進は評価 A とする。
- (会長) 施設整備・デジタル化の推進については、垂水図書館の新館の取組、貴重書のデジタル化について一部未了だが計画は評価ポイントである。デジタル化と施設整備に関して意見を求む。
- (委員) デジタル化が進んだら国立国会図書館へ連絡を。国会図書館が未所蔵の資料であれば、図書館送信プロジェクトに載せられる可能性がある。神戸発の資料を全国へ届けられる。倉田敬子館長による今後 5 年の計画で、デジタル化推進と著作権法に基づく図書館送信の拡大も目的の上位に掲げられている。国会図書館未所蔵資料について、各図書館がデジタル化していれば、著作権法の範囲で全国提供が可能にならないかということも検討できると思う。その準備として、国会図書館未所蔵資料のデジタル化有無のチェック、可能なら著作権者の没年等の著作権調査を進めてほしい。準備があれば即時連携可能になる。計画初期からチェック体制を入れ、できる範囲で進めてほしい。
- (事務局) 今回のデジタル化は古文書が中心のため著作権上の問題はないと思われる。当館は明治 44 年開館であり、国会図書館が持っていない資料も所蔵している。該当資料をデジタル化しデータ提供するという課題を共有済みである。不明点は相談させていただきたい。
- (会長) 富士フィルムがマイクロフィルムの受注を 2025 年に終了した。これを踏ま

えたデジタル化計画は評価できる。垂水図書館は開館直後で即時評価は難しいが、順調に推移している点は評価。全員から概ね A 評価であり、着実に進行しており、デジタル化は一層推進が期待される。以上を踏まえ、施設整備・デジタル化の推進は評価 A とする。

(会長) (4) 誰もが使いやすいサービスについて、障がい者、年少者、高齢者、外国人の各視点に立った環境整備を評価する。関係機関との連携、多様な取組も評価。一方で、「誰に」という対象や利用実績の効果の詳細分析が弱い。私自身は、問題はあるが課題認識はされているため A 評価と考えるが、取組の定着は十分でない面がある。また、分析というものについての結果が示されていないという点からは、B という評価もあり得ると考える。特に読書バリアフリー調査は簡単に評価できない問題であり、どこまで進めば良いかは障害者差別解消法の内容を見ても対応が難しいところがある。一方で、諸外国に比べて日本は対策が遅れていると言われる。先取りする形での取組みはあって良い。このサービスについてのコメントや意見をぜひいただきたい。

(委員) B 評価を付けたため、説明する。会長のご指摘のとおり、誰にとって使いやすいのかという対象ごとに各図書館で対応していることは理解しているが、1 つの図書館であらゆる対象に配慮するところまでは至っていない。現状は「この図書館ではこの人」「別の図書館では別の人」と対象が分かれてしまっており、まだ途中段階と判断した。評価は A でかまわないが、今後の課題として、「誰にとって使いやすくなっていないのか」をより多角的に分析し、各図書館で「すべての人に使いやすいサービス」をどう構築するかを検討してほしい。

(会長) 重要な指摘であり、図書館側で考えていくべき点だと認識する。課題意識自体は共有されているが、対応が十分に落とし込めていない現状がある。今後その点に注目し、対応を検討してほしい。図書館側に引き続き様々な形で検討していただくことを前提として、評価は A としたい。

(会長) (5) 子どもサービスについては、乳幼児から YA まで、イベントの量や多様性、ボランティアとの協働、関係機関との調整に大きな努力が見られ、評価は高い。「読み聞かせびと養成講座」の修了の仕組みについても評価している。学校図書館への司書研修によるノウハウ提供、子どもの居場所の検討、他館への展開が示されている点も評価できる。中高生向け電子書籍の充実・促進も意識されている。十分とは言えないかもしれないが、教員等の協力を得て利用促進に努めることを期待する。B 評価を付けた意見として、養成講座の実践力、定員に対する批判が挙がっている。これらが課題として残っている点は確かである。GIGA 端末と読み放題パックを学校図書館と連

携している例は全国的にも多くはなく、試行段階から取り組み、学校との連携を試行している点は評価できる。選書サイクルに対して学校から助言を得る取り組みは重要である。子どもサービスは、社会教育と学校教育の連携を強化していく必要がある。以上についてご意見をいただきたい。

(委員) 電子図書館の小学生の ID はいつまで有効か。

(事務局) 小学生の ID は卒業まで有効である。

(委員) 卒業後につなげていくことができればより良い。ただ、YA（ヤングアダルト）についての記述が多くはなかった。どのように展開していくか、全般的対策は難しいが、積極的に働きかける方法があれば望ましい。

(委員) B 評価を付けたため、その理由を説明する。読み聞かせびと養成講座は、神戸市で非常に古くから継続されており、途切れなく続けている点を高く評価している。講座修了生を読み聞かせの現場や活動グループに橋渡ししている点も評価できる。個々の要望や受入れ側の事情が異なり、きめ細かな対応に感謝する。感謝の気持ちが大きく、また、活動の場を提供いただいている立場もあり、困りごとが言いづらいため、この機会に挙げさせていただく。修了者がボランティアに「一人前意識」で参加する場合があるが、即戦力に欠けることがある。地域の子どもたちの状況を把握して選書、読み方などを工夫するため、教科書的知識が通用しない部分があることへの理解が不足している。図書館ホームページに「読み聞かせボランティアのために」というページがあり、パンフレットも印刷可能だが、周知が不十分である。読んだことがない人が多く、もったいない。パンフレットに書かれた内容は、各グループが新メンバーに伝えているが、意欲・自信のある新規参加者には届きにくい。講座内でパンフレットをより周知してほしい。講座は全国的にも回数が多い部類だと思う。基本的な選書や、何のために子どもに本を読むかは重要だが、受講者には「孫に読みたい」など家庭内での読み聞かせを志向する方もいる。家庭内であればスキンシップ重視で、養成講座の対象外とも言える。一方、ボランティアとしてのおはなし会では、保護者からお手本視され、選ぶ本も図書館が薦める本として見られる。市民がいきなり「公」の顔で活動せざるを得ないギャップが大きい。このギャップを講座で強く伝えてほしい。募集対象を活動している方、これから活動する方に絞ったほうが、これらの要点を伝えやすいのではないか。15 年前に神戸に移ってすぐ活動に参加した時から、即戦力不足の課題があり、グループ内で言いにくい話題として毎年挙がっていた。加入後は平等原則で回数分担するグループもあり、質を重視したいが難しい局面がある。どの機会に、どこに申し上げるべきか迷っていたが、今回、十分な取り組みがあることを前提に、現場グループが困っている点として指摘した。

(会長) 一般的に養成講座を受けても、すぐに現場で即戦力となるのは難しい。期待に結びつくまで時間がかかるのは理解する。しかし、初期段階から現場を意識していくことには意義がある。図書館でも現場ニーズと課題を把握していただきたい。評価は、現行の取組み自体は評価しつつ、いただいた意見を記録として残して図書館に強く伝えたいということによいか。

(委員) 問題ない

(会長) 全体として、今の活動内容はかなり高い評価が妥当と考える。一方で、より検討を深めていただきたい点、方法にプラスアルファを加えていただきたい点、アンケート分析の深掘りなど、改善余地がある。これらのプラスアルファを検討した上で、評価を受け止めてほしい。評価は A とする。

【閉会】

(事務局・境課長) 本日は長時間にわたる協議ありがとうございました。本日、ご協議いただいた内容につきまして事務局でまとめを作成させていただき、各委員の皆様へご確認、ご承認をいただく。貴重な意見を沢山いただき、その意見をこの先の図書館運営に生かしていけるよう取り組んでいく。